木質オフィスビルの設計

令和元年度 木材利用提案コンクール　最優秀賞　白川 光聖（秋田工業高等専門学校）

Form

Location

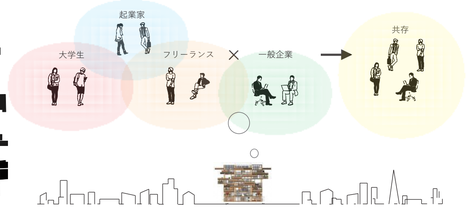
敷地周辺は低層な住宅が入り混じる街並み

人通りが少なく閑散としている

人が集まり経済が回る構造を作っていく必要がある

Concept

秋田県は、少子高齢化や人口減少が進んでおり、若者の都会への流失も止まらない現状がある。そんな中でも新たなビジネスを試みる起業家の人々が存在する。しかし、起業家達が支援なしで成功するには難しい現状がある。そこで、起業家やフリーランス大学生などの人々が一般企業とオフィスを共存することにより、交流の場が増え、相乗効果が得られるオフィスビルを提案する



Background

木材

・火に弱い

・地震に弱い　というイメージ → 大規模建築に向かないと思われている

しかし、近年では CLT 工法など建築技術が向上。世界的に大規模建築が計画

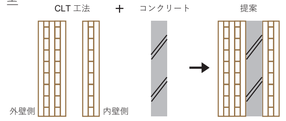
日本でも法改正がされ、耐火構造であれば、大規模建築物が建てられる

そこで今回 “木質オフィスビル” を提案

Structure

CLT 工法＋コンクリートを採用

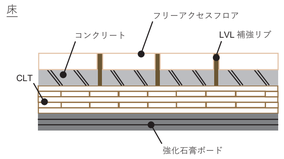
壁



CLT の間にコンクリートを打設することにより高い耐力・断熱性を有する

厚い外壁側の CLT は遮音性・断熱性に寄与する

床

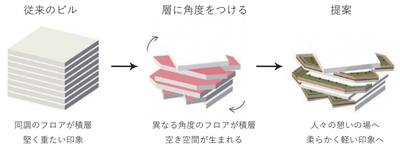


コンクリートが圧縮力を負担することで床振動にも配慮したロングスパンが実現

耐火性能を有するため下面に強化石膏ボードを採用した

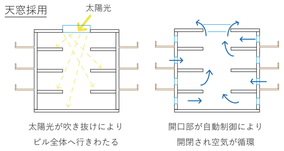
フリーアクセスフロアとすることで自由なレイアウトが可能に

Process



Eco sysytem

天窓採用

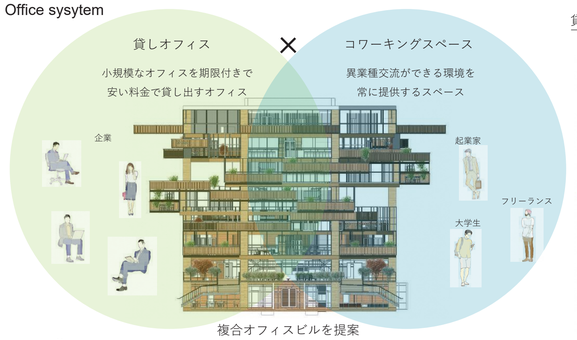


Security

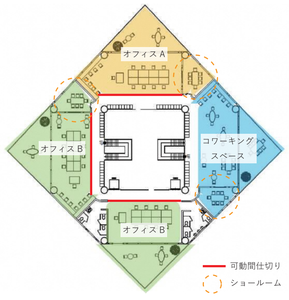
屋外テラスからオフィスの上下階・内部を自由に移動できるが、貸しオフィスのエリアは関係者以外立ち入りを禁止することでセキュリティー面で考慮を行った。

屋外テラスにショールームを隣接させることで貸しオフィス部分のショールームに侵入可能とし、商品販売や展示をすることができ、地域の人々に発信できる場とした

Office sysytem



貸しオフィス



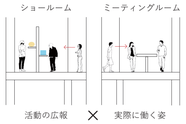
可動間仕切りを設けることで ...

・ベンチャー企業

・地域団体　　etc...

小規模なオフィスを期限付きで
安い料金で貸し出すことを可能にした

ショールームを設けることで ...



活動の広報 × 実際に働く姿

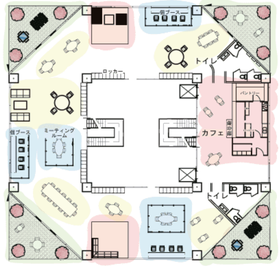
ミーティングルームは、商品販売・展示として利用できるショールームへと可変する

コワーキングスペース

大きく４つのグループで構成し、異業種交流の場へとした

共有　異なる職種の人々の情報交換の場

誘発　カフェなどの空間がきっかけで新たなコミニュニティーを生み出す場



休息　休息する場。自然を感じ、また交流する場

集中　個人またはグループで集中作業及び議論を行う場

Connect

屋外テラス同士を階段でつなげる

上下階の繋がり

移動　屋外テラスを上下階で階段でつなげる

＜内部＞と＜外部＞を自由に移動でき、行き止まりが少なくなる

→ 空間に奥行きが生まれる

視線　高さレベルの違う屋外テラスを設ける

テラス越しに視線を交わすことができる

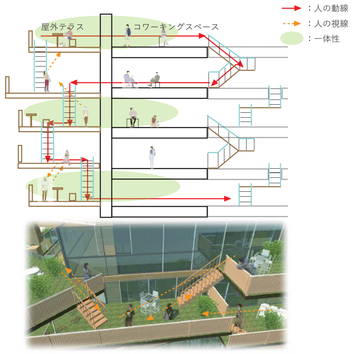
→ お互いの気配を感じ、人々の交流のきっかけに

内外間の繋がり

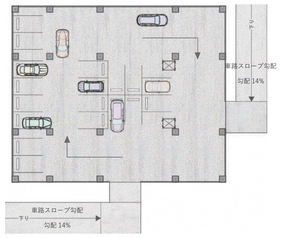
滞留　屋外テラスにテーブル・椅子を設ける

人々の滞留行為が発生し、内外空間の一体性が強くなる

→ 空間に広がりを与える



Plan

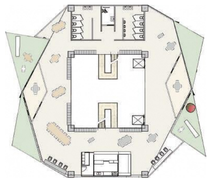


B1F

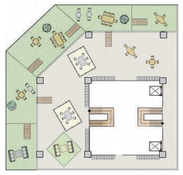
1F

2F

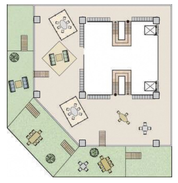
3F



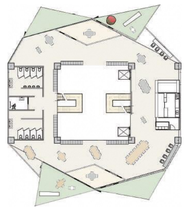
4F



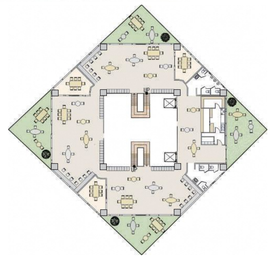
5F



6F



7F



8F